

HOYA株式会社

2022年3月期 第3四半期 決算説明資料

2022年2月1日

将来予測に関する記述

当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、現在問題となっている新型コロナウイルスをはじめとする疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。

CEOのサクセッションについて

昨年12月22日、CEO鈴木 洋の退任と、現CTOの池田 英一郎が次期CEOに就任することを発表。本件のポイントは以下のとおり。

鈴木 洋 退任の背景

- CEO歴20年以上、年齢も60代に入り、家族との時間を取りたいと考えるようになった
- 約1年前、指名委員会に申し出。コロナ対応の目途が付いた時期に退任することとした



後継の選定プロセス

- かねてよりサクセッションプランを検討してきた指名委員会にて、具体的候補者を選定開始
- これまでの実績と成長の源泉となる技術開発に明るい池田を選定した



今後のスケジュール

- 本年3月1日にCEOのバトンが鈴木から池田に
- FY21 Q4決算発表時に新体制の経営方針等を説明予定

次期CEOのご紹介



池田 英一郎 (いけだ えいいちろう)
1970年3月17日生まれ
中央大学工学部卒

1992年4月 当社入社
2010年1月 当社MD事業部メディアSBUゼネラル・マネジャー
2010年2月 当社MD事業部共同事業部長
兼メディアSBUゼネラル・マネジャー
2010年9月 当社オプティクス事業部 光学レンズSBU長
2013年6月 当社執行役 情報・通信担当COO
2015年6月 当社執行役 情報・通信担当COO
兼技術担当(CTO)
2018年3月 当社執行役情報・通信担当COO
兼技術担当(CTO)
兼アイケアカンパニープレジデント
2020年3月 当社執行役 技術担当(CTO) (現任)
2022年3月 当社代表執行役CEO就任予定

決算ハイライト

1. 売上収益、通常の営業活動からの利益が過去最高を更新
2. ライフケア事業は、変異株による感染再拡大の懸念があったものの回復が継続、コロナ前を上回る売上水準に
3. 情報・通信事業は、前四半期に続き全ての製品が二桁成長。データセンター向けの3.5"基板が引き続き好調。
4. 600億円を上限とする自社株買いを決議。成長投資を優先しつつ、余剰資金について株主に還元していく方針は不変

業績概況

(億円)	Q3 FY20	Q2 FY21	Q3 FY21	YoY	QoQ
売上収益	1,469	1,626	1,713	+17%	+5%
税引前四半期利益	458	540	519	+13%	-4%
四半期利益	369	430	409	+11%	-5%
cf. 通常の営業活動 からの利益	461	492	535	+16%	+9%
cf. 通常の営業活動 からの利益率	31.4%	30.3%	31.3%	-0.1ppt	+1.0ppt

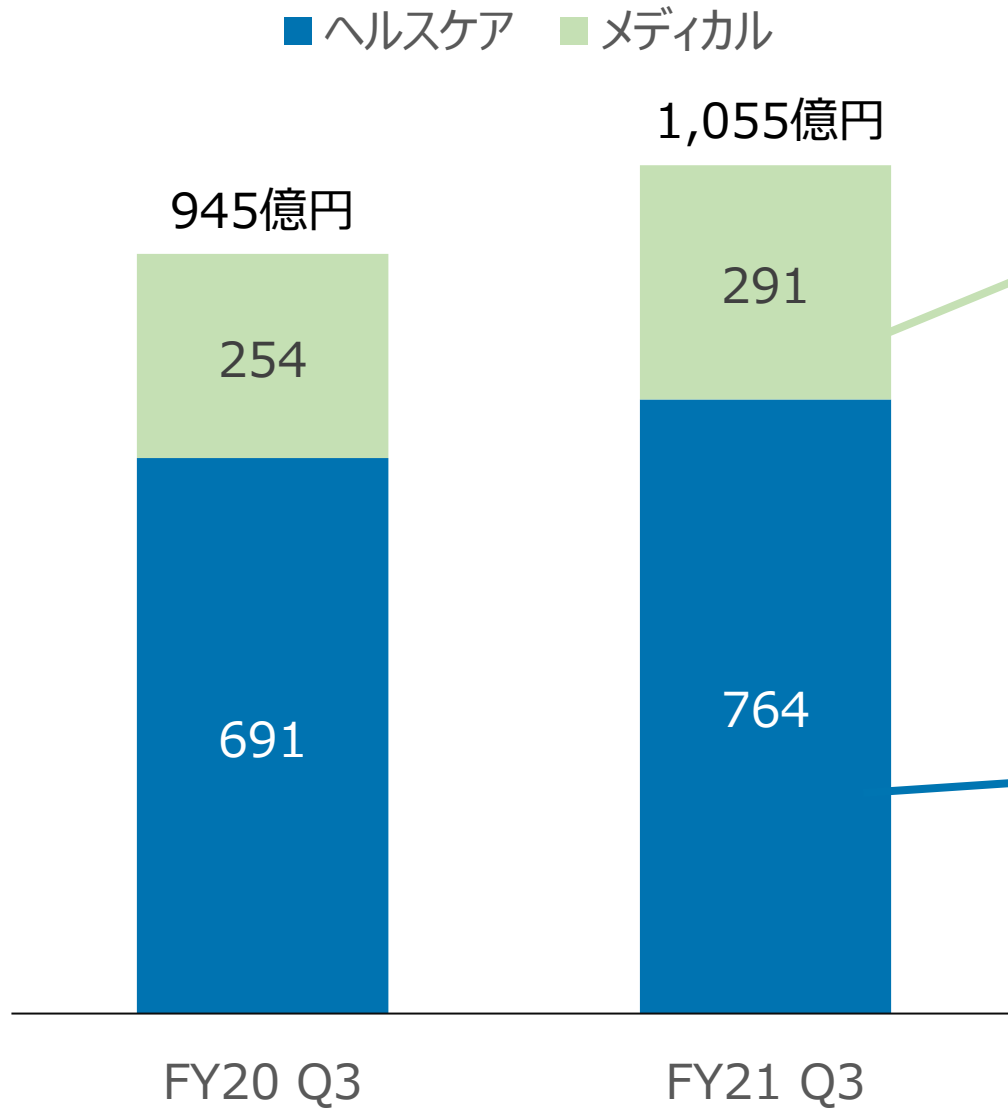
- Constant currency basisでは売上収益+11%、税引前四半期利益+9%
- Q2の為替益30億円に対して、Q3は為替損19億円だったこと等により、税引前四半期利益はQoQで減益

ライフケア事業

(億円)	Q3 FY20	Q2 FY21	Q3 FY21	YoY	QoQ
売上収益	945	991	1,055	+12%	+6%
税引前四半期利益	207	234	215	+4%	-8%
cf. 通常の営業活動からの利益	217	198	232	+7%	+17%
cf. 通常の営業活動からの利益率	23.0%	19.9%	22.0%	-1.0ppt	+2.1ppt

- Constant currency basisでは売上収益+7%、税引前四半期利益+1%
- コロナ前（FY19 Q3）と比較すると、売上収益は+7%（コンタクトレンズにおける増税後の反動減影響を除いた増減率）

ライフケア事業 各製品の概況



内視鏡 [YoY +9% / vs FY19 -1%]

- 依然、部材の調達がタイトだったものの、成長を確保
- 今後も部材調達努力により対応を図る

眼内レンズ [YoY +6% / vs FY19 +12%]

- 欧州が引き続き好調。日本も回復傾向
- 製品開発と販売体制強化により市場を上回る成長を目指す

メガネレンズ [YoY +5% / vs FY19 +8%]

- 中国を中心にAPACの売上がけん引
- 調光レンズやMiYOSMART等、付加価値製品に注力

コンタクトレンズ [YoY +8% / vs FY19 +6%**]

- 外出とコンタクト装用機会増により増収
- 10店超規模のM&Aを実施。今後もM&Aに注力

*成長率はConstant currency basis

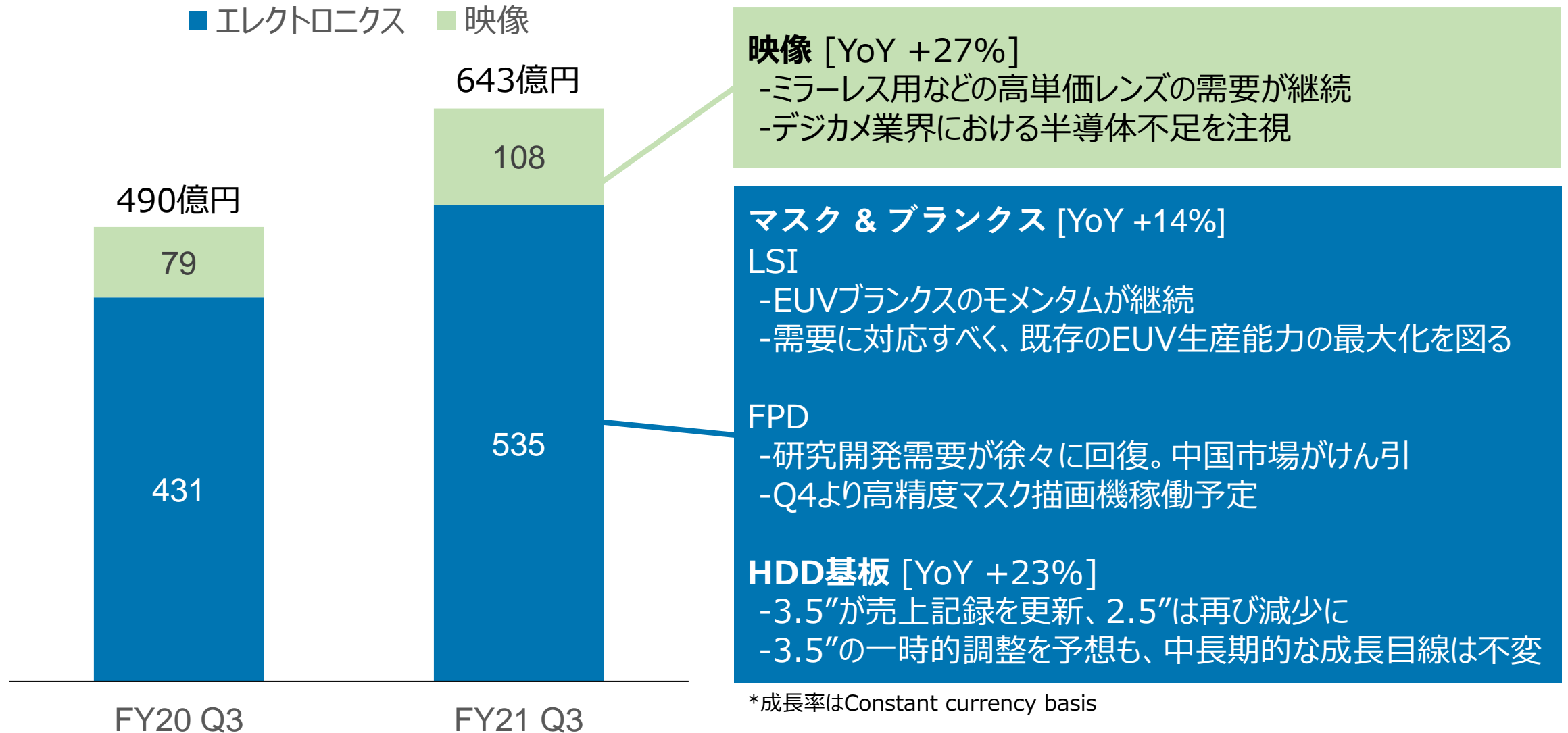
**FY19 Q3における消費増税後の反動減（約29億円）の影響を除いた増減率

情報・通信事業

(億円)	Q3 FY20	Q2 FY21	Q3 FY21	YoY	QoQ
売上収益	511	620	643	+26%	+4%
税引前四半期利益	239	310	313	+31%	+1%
cf. 通常の営業活動 からの利益	251	301	311	+24%	+3%
cf. 通常の営業活動 からの利益率	49.2%	48.6%	48.4%	-0.8ppt	-0.2ppt

- Constant currency basisでは売上収益+19%、税引前四半期利益+25%

情報・通信事業 各製品の概況



貸借対照表/キャッシュフロー関連

キャッシュ

- Q3で創出したFCFは408億円 (YoY +75億円)
- 現金及び現金同等物は4,160億円に (YoY +980億円)

設備投資*

- Q3実績は55億円 (YoY -32億円)
- 年間では300億円前後を見込む**

減価償却費

- Q3実績は107億円 (YoY +15億円)。QoQフラット
- 年間累計では430億円前後を見込む***

* CFベース。有形固定資産の取得

** 意思決定ベース。キャッシュアウトのタイミングにより変動の可能性あり。前回の見込みから変更なし

*** 前回の見込みから変更なし

業績予想

Q4予想

(億円)	Q4 FY20	Q4 FY21	YoY	QoQ
売上収益	1,514	1,631	+8%	-5%
税引前四半期利益	413	481	+16%	-7%
四半期利益	308	378	+23%	-8%

通期予想

(億円)	FY20	FY21	YoY
売上収益	5,479	6,550	+20%
税引前利益	1,592	2,050	+29%
当期利益	1,252	1,630	+30%

本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2021年4月～2022年3月の会計期間を2022年3月期もしくはFY21と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
%は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ 「通常の営業活動からの利益」は、税引前四半期利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。
<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

Moving
towards
the next **80** years →